

会話における「って」と「と」の交替に関する一考察

福島 悦子 上原 聡

東北大学

{efuku, uehara}@insc.tohoku.ac.jp

1. はじめに

縮約形やそれに類するくだけた表現は、丁寧体の会話の中でも用いられるものもあり、自然な会話運びのうえで重要なものの一つで、丁寧体を用いる相手との会話においても、効果的にとりいれることが不可欠であると考えられる。しかし、丁寧体での使用には制限が見られ、表現形式によっては丁寧度のかなり落ちる場合もある。また、同じ表現形式でも、それが生起する統語的状況やその果たす機能によって、くだけた表現をとりやすい場合ととりにくい場合とに分けられるものがある(上原・福島:2004)。本研究では、同じ表現形式で、統語的状況や機能によって、その使用に異なりが見られるもののうち、「と」とそのくだけた表現形式である(縮約形として扱われることもある)「って」を取り上げ、丁寧体を基調とする実際の会話をデータとして両形式の使用の状況を観察し、どのような場合に「と」と「って」が交替しやすいのか、あるいは交替不可能なのか、その要因に関して解明する。

2. 先行研究

「って」は厳密には「と」より短くなるわけではないのでその縮約形とは言えないという指摘がある(斉藤1991:94)が、「って」を「と」の縮約形として扱うことが多く、ここで取り上げる三つの先行研究でも、縮約形の類としての扱いとなっている。

川瀬(1992)は、日本語教科書、新聞、辞書、テレビ番組、作例等を資料として用いて、機能語に見られる縮約形について定義・分類し、その文法記述を試みたもので、「縮約形の形態」を7種の類型にまとめたうちの「促音化」の例の一種として「と」→「って」をあげている。(1)~(4)に川瀬のあげた具体例を示す。

(1) 助詞「と」→「って」

例：山田という人→山田っていうやつ

(2) 「という」→「って」

例：その差の250が今月分の使用量ってことなんですよ

(3) 「というのは」→「って」

例：「じどうふりかえ」って何ですか

(4) 文末形式(伝聞)「(だ)ということだ」→「(だ)って(さ/よ)」

例：明日は休むってよ

この分類は有用であるが、川瀬は特に交替の文脈状況については言及していない。

堀口(1989)は、4つのテレビ番組と9つのラジオ番組を資料として用い、ある種類の縮約形を文法と関連させながら日本語教育に取り入れていこうという立場から、日本語の話しことばにおける縮約形の実態を捉えたものである。資料に現れた縮約形とその原形の用例数を求め、その用法について詳細に分析を行っている。その項目の一つとして「～トイウ」>「～テ」を取り上げ、その中で「イウ」のない形、つまり上の川瀬の4タイプのうち(2)-(4)を縮約形として注目したいものとして取り上げ、自然によく使用されるものとして用例をあげているが、交替の文脈状況に関しては言及がない。

峰岸(1999)は、自らが作成し、録音した刺激会話(18の原形/縮約形のペア)を日本人母語話者に聞かせて[自然さ][かまわなさ]について評価を求め、縮約形を、初級から導入するか、どんな場面で用いるか等の観点から3つのグループに分け、さらに、絵本の解釈についてのインタビューを用いて使用実態を求め、上記の結果の修正を行うという方法で縮約形を考察している。その中で「という」=>「って○○」、「と」=>「って」を取り上げ、

「って○○」をインフォーマルな場面に限って使用の許される縮約形、「って」を上級学習者がインフォーマルに話すときになってから使用してもよい縮約形としている。ただ峰岸はそれぞれのタイプの例文をあげていないため、前者は川瀬の(2)に対応すると考えられるが、後者は川瀬の(1)と1対1対応をするのかなど不明である。

3. 本研究の目的と方法

以上の先行研究を踏まえて、本研究の前段階となる上原・福島(2004)は、実際の丁寧体の会話をデータに様々な縮約形やそれに類するくだけた表現の使用に関して、出現した表現形式の種類、出現頻度を求め、それらの表現形式がなぜ丁寧体の会話の中で用いられるのかを考察している。初対面の最初の15-30分の会話にデータを限ることによって丁寧度を一定にし、その中に現れる基本形とくだけた形の出現割合と統語状況を考察したのである。その結果の一つとして、「同じ表現形式でも、それが生起する統語状況やその果たす機能によって、くだけた形をとりやすい場合ととりにくい場合とに分けられるものがある」ことを指摘している。これを「では」⇒「じゃ」を例にして示すと、文頭で接続詞として用いられるもの(例:じゃ、……)と否定に前接する「じゃ+否定」のもの(例:じゃない)は前者、二つの助詞の結合した「では」からのもの(例:??中国じゃあ「……」っていうのがある)は後者ということになる。

本研究は、上原・福島(2004)と同じ手法を用いデータをさらに増やし、「と」⇒「って」のみをとりあげて、その統語状況や機能をさらに詳細に分析し、両者の交替の統語状況を求めることを目的とする。

4. 本研究のデータ

4. 1. 収集方法

自然な会話データを収集するため、本来の目的をあかさず協力者を募り、丁寧体を基調とした会話が行われると予想される初対面の人同士のペアを12組作った。ペアの一方をイ

ンタビュアーとし、文化による習慣や考え方の違いについてのテレビ番組の録画ビデオのクリップをともに見て、それについての感想や意見を話し合うことを依頼した。ビデオのテーマは、「挨拶言葉(いい天気ですね、ご飯食べましたか)」、「親子関係」「夫婦別姓」である。今回データとして使用したものは2001年7~8月に収録したもののうち文字化しデータとして完成した4組の資料で、総時間は約75分である。会話は全て標準語で行われている。以下に会話参加者の社会的背景について示す。

表1. 会話参加者の社会的背景

会話番号	参加者	性別	年齢	出身地
1	I	F	31	東京
	N	F	38	東京
2	I	F	31	東京
	N	M	23	東京
3	I	M	23	東京
	N	M	27	群馬
4	I	M	23	東京
	N	M	19	岩手

NB. 表中および本文中の記号はそれぞれ次のものを表す。 I: インタビュアー、 N: 相手、

F: 女性、 M: 男性

4. 2. 対象

3. 1. の方法で収集したデータから、「と」(ないしは「という」と交替の可能な「って」をとりあげ、分析の対象とする。先行研究の例であげると、川瀬(1992)の(1)、(2)に当たるが、ここでは「と」⇒「って」の交替には、その後続く形が「いう」といういわゆる同格の機能を持つものだけではなく、本動詞としての「言う」や「聞く」などの場合も全て考察に入れた。

逆に川瀬の(3)、(4)は対象から外したが、それは、『じどうふりかえ』って何ですか等の「って」を「と」の形に戻す場合『じどうふりかえ』と何ですかのように、文法的に不適格な文(非文)となるからである。「いう」以外にも他の要素(助詞の「は」など)を付加して初めて交替可能となり、「って」と

「と(いう)」間の交替とは言えないのである。

5. 分析結果と考察

まず、データに現れた「と」と「って」の出現数を表2に示す。表中、「いう」と「言う」の2形があるが、前者は同格に機能を持つもの、後者は本動詞として「発言」の意味を持つものを指す。

表2. 「と」と「って」の使用状況

分類	と	って*	後接する形式
同格	0	26	名詞
同格 (いう)	28	132	いう
	13	10	いうか
	0	2	(いう)か
本動詞 (言う)	4	31	言う
	0	1	つう*
本動詞	1	0	話す
	2	0	申す
	0	1	叱る
	0	1	駄々をこねる
	0	1	ヤジが飛ぶ**
	0	6	聞く
	68	1	思う
	1	1	考える
	0	1	驚く
	0	1	決める
	0	1	(ガーって)ゆれる

NB. 表中の()は、その部分が明確に聞こえない、または無いことを表す。

*「って」には、「なんて」のように撥音に後接し「て」となる場合(「なんていうか」1回、「なんて言う」3回)を含む。「って言う」は「つう」1回を含む。

**「ヤジが飛ぶ」に前接する「って」は「～ってヤジ」の意味での名詞後続の類に分類することも可能である。

表から、「と」「って」両形式が出現している場合と、一方の形式のみが出現している場合があることが分かる。1例のみしか出現していないものについては、確定したことは言えないので、ここでは複数以上出現したものについて取り上げる。

まず、「って」しか出現していないものには「て(いう)か」「なんていう/言うか」「って聞く」「って名詞」がある。一方「と」のみ出現しているものは、「申す」だけであった。それぞれ例を示す。

- (1) まあ、よ、喜ばせるってか。(2IF)
- (2) いい天気ですねえっていうのは、あくまでも、なんていうか、挨拶というか。(2IF)
- (3) ビデオ見てって聞いたんですけど。(2NF)
- (4) 彼らの場合だと特になんか女子高生のプチ家出ってのがありますけど。(4NM)
- (5) 日本ではそういう意識があまりないってことでしたけど。(3IM)
- (6) コミュニケーションがあまりできてないって問題ではないと思ったんですよ。(4IM)
- (7) Sと申します。(3NF)

これらの中でも、「なんていうか/言う」「って聞く」のように、データでは偏りが見られたが、両形式が使用可能、つまり文法的に不適格となるわけではないものと、「って名詞」のように「と(いう)」とは交替可能であるが、「と」を用いると文法的に不適格になるものがあることが分かる。また、「てか」は「とか」とすると意味が変わってしまい、同じ文脈では用いることができない。「名付け」の意味を持つ「申す」の場合は、謙譲語という「申す」のもつ待遇性と「って」の持つくだけた表現としての待遇性がそぐわず、「と」のみが用いられると考えられる。

次に、「と」「って」両形式が出現しているものの類に関して見ていく。第一に、「と」「って」両形式の出現率に偏りのあるものについて述べる。本動詞の種類による異なりがそれで、「言う」が後接する場合は「って」が、「思う」が後接する場合は「と」が多いことがあげられる。特に「思う」の場合、「って」が出現したのは、わずか1例であった。下に例をあげる。

- (8) それは違うんだと思うよって言うと

(4IM)

- (9) まーどっちも大事にしたら…一番いいかなって思いますけど…(4NM)

第二に、「と／っていう」の類を取り上げる。この類では、後続する「いう」が同格を表すものか、本動詞の「言う」を表すものかに関して、明確な分類が困難な場合が多い。次に例を示す。

- (10) しないのが当たり前と言っておりましたけれども、どうでしょうか。(3IM)

- (11) 今日はいい天気ですねって言われると、(1NF)

- (12) さわりって言うんですかね。(2NM)

- (13) Fといいます。(4IM)

- (14) 何か喜ばず、喜ばせるっていうこう、言葉を探しているんじゃないんですかね。(1NF)

- (15) 言葉を返したことがないっていうのは、ちょっとびっくりしたというか、(1IF)

これらに関しては、使用文脈はもちろんのこと、テープを聞き、音声的な面を取り入れて判断した。「口を動かして思ったことを言葉で表す(『学研現代新国語辞典』)意味の「言う」から、「…の名前で呼ぶ」・「名付ける」→「～と判断する」・「同格を表す」という、意味機能の近似性・継続性が見てとれる。「と」と「って」の使用傾向に関しては、(10)、(11)の例を対比して検討する。例を見て明らかのように、「(言って) おりました」という謙讓語が後接する場合は「と」が出現しており、「～と申します」に関して述べたと同様、待遇性の問題が「と」と「って」の使い分けに関係していることが示唆している。

6. おわりに

本研究では、実際の会話をデータとして用いて、「と」と「って」の使用状況に関して観察し、その交替の現象について考察した。その結果、両形式のうち一方の形式のみが出現している場合、どちらも出現しているが使用

傾向に偏りがある場合があることが明らかになった。偏りの要因としては、文法的な適格性の問題、待遇性等語用論上の問題、他の要素(助詞等)と結合して用いられる際の意味の問題、後接する語の意味による使い分けの問題がある。また、両形式の出現率に顕著な偏りが見られない場合にも、待遇性による使い分けが見られることを指摘した。

今後は、両形式使用の際の個人差の問題、男女差の問題をも考慮に入れた研究をしていく予定である。また、「と／いう」の例のような、元の語の持つ意味の希薄化の過程、さらには「ていう+名詞」⇒「て+名詞」のような「いう」という形の消滅に及ぶ問題を、文法化という観点からとらえていきたいと考えている。

参考文献

上原聡・福島悦子(2004)「やっぱ丁寧に話しちゃいますんで:丁寧体の会話における縮約形とくだけた表現の使用」『Fourth International Conference on Practical Linguistics of Japanese(CONFERENCE HANDBOOK』, pp. 42-43.

川瀬生郎 (1992)「縮約表現と縮約形の文法」『東京大学留学生センター紀要』第2号, pp. 1-24.

斉藤純男 (1991)「現代日本語における縮約形の定義と分類」『東北大学日本語教育研究論集』第6号, pp. 89-97.

堀口純子 (1989)「話しことばにおける縮約形と日本語教育への応用」『文芸言語研究 言語篇』15号, pp. 99-121.

峰岸玲子 (1999)「日本語学習者への縮約形指導のめやすー日本人による評価と使用率をふまえてー」『日本語教育』102号, pp. 30-39.